

国立国会図書館の デジタルアーカイブ 構想

資料の検索

NDL-OPAC（蔵書検索・申込）

アジア言語 OPAC

当館で利用できる電子ジャーナル

憲政資料室の所蔵資料

総合目録

デジタルアーカイブポータル

日本全国書誌

NDL 新着図書情報

調べ方案内

リサーチ・ナビ

レファレンス協同データベース

Dnavi

Books on Japan

日本と世界の議会・法令・官庁資料

アジア情報室

電子図書館

近代デジタルライブラリー

デジタル化資料（貴重書等）

インターネット資料

デジタルアーカイブポータル

国立国会図書館サーチ（開発版）

インタビュー◆中山正樹「国立国会図書館総務部副部長」

国立国会図書館のデータベース、検索システムが刻々と進化している。
PORTA^{ポルタ}も包含する検索システム「NDL-Search」(国立国会図書館サーチ)も、
2012年1月にオープンに向けて、簡易版が公開されている。

どういう検索ができて、その背後には、どんなデータベースがあるのか。

公共図書館員や一般の利用者は、それらをどのように利用することができるのか。

国立国会図書館で情報システムを開発してきた中山正樹さんに

データベースの現状とめざすところをインタビューした。

(このインタビューは2011年4月11日に行ないました)

PORTA→NDL-Search

国立国会図書館の

デジタルアーカイブ構想は

どこまでできたか



◎プロフィール

中山正樹(なかやま・まさき)

国立国会図書館総務部副部長。

電子図書館サービスの企画、デジタルアーカイブ構築に携わり、
現在、国立国会図書館の業務システム最適化計画に基づいて、
図書館業務サービスシステムのリニューアルを進めている。

一貫して取ってきた姿勢は、「効率化」。

効率的で創造性のある社会を夢みる。

それは、労働集約的な仕事を機械に任せて、人がより創造的な
仕事へシフトできるようにすること。さらに、デジタルとITの
活用によって、新たな知識が再生産されることをめざす。

公共図書館のウェブサイトは どこが遅れてる？

◆沢辺 国立国会図書館（NDL）のデータベースや書誌検索システムが進化していますが、正直言ってしまうところか日々変わっているかが、僕もよく整理できてないんですね。公立図書館や大学図書館、あるいは一般の利用者にどういうサービスが提供されていて、どう使えるのか、そのあたりも含めてお話をうかがえればと思います。

その前に、中山さんは情報システム課に來られてから長いのですか？

◆中山 私は社会人になってからずっと情報システムの仕事についています。最初は民間の会社に入り、コンピュータ部門で11年くらい、その後、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）という経済産業省の外郭団体に移り、2002年に国立国会図書館に入りました。

◆沢辺 情報システムの専門家なんです

ね。その中山さんから見て、いまの公共図書館のウェブサイトはどうみえますか？

◆中山 公共図書館ですから、従来型のサービスは継続してやっつけてらっしゃるんですけど、デジタル面をみると、世の中の動きと比べると動きが遅いかなと思いますね。

◆沢辺 遅いポイントはどのへんですか？

◆中山 紙からなかなか脱却してないのかなと。これからの時代は、紙の資料がデジタルになるものもあれば、デジタルから紙になっていくものもあり、いろいろ形態が変わってくる。利用者が求めているのは形態よりも中身なんじゃないかと思うのですが、いまはまだ紙としての媒体にこだわらずじやないかと。これはNDLもいっしょかもしれないが。世の中の人がほしいのは、本当にものとしての本だろうか。ものではなくて、中身が知れることではないか。その辺の観点が必要じゃないかと思えますね。

注1●HTML (HyperText Markup Language) ……
ウェブページを作成するための言語。

注2●CMS (Contents Management System) ……ウェブ上のコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを別々に保存し、サイトの構築や編集を自動に行うソフトウェアのこと。

◆沢辺 僕が感じるのは、従来のお知らせ型にずっとどまっているような気がするんですけどね。開館日はいつですよ、とか。

◆中山 公共図書館ですから、来館する、来てもらうということが重要で、そういう案内は欠かせないとは思いますが。

◆沢辺 欠かせないとは思いますが、ものすごくプリミティブじゃないですか。実態を調べたことはないですが、ウェブサイト上からみると、HTML〔注1〕で書いているのか、エディターで作っているのかわからないですけど、要はそれをアップしているだけ。十年くらい前にやっていると同じです。例えばCMS〔注2〕のような簡便に情報を更新していくようなものに取り組まれているように

も見えない。これは、実際の仕事の現場においても道具や状況に合わせてやり方そのものを見直していくということが見えない、ということでもあるんじゃないかと思うんです。

◆中山 うーん、でもそのあたりは図書館に限らず遅れているところは多いと思うんですけどね。情報発信に力をいれてタイムリーに出す、業務を効率的にやるというふうに考えれば、やはりそういったコンテンツマネジメントシステム(CMS)をいれてやるべきだと思いますけど、図書館の場合、すでに入っているシステムがあるわけで、その部分を変えるのはなかなかむずかしいのかもしれない。新しいサービスには取り組もうと、みんな一生懸命考えるかもしれないですけど、従来の仕組みを見直すというところに、振り向ける余力がないのかもしれないですね。私自身は、これまでソフトウェアを開発してきたなかで、ソフトウェアの開発をいかに効率的にできるかを考えてきたん

注3●シグマシステム……
1985年通産省主導で行なわれたソフトウェアの品質と生産性の向上を目指すプロジェクト。1990年事業終了。

ですね。ソフトウェア生産効率化事業、シグマシステム「注3」というのがあって、そこで開発ツールを駆使してソフトウェアを開発するというのをやってきた。しかし、システム開発の効率化は必要ですけど、今度それを使って業務を動かす人たちも効率化を考えていかなければいけない。

図書館も含めて、人海戦術的なところに人がどんどん注力されていくのではなくて、そういう仕事をいかにシステム機械にまかせて、その人たちの力を再生産するというか、新しい創造性のある仕事にしていくというふうにまわっていかなければならぬ。図書館に限らずですけど、システムを入れて何かを変えろというこ

とよりも、いまある目先の仕事を総出で終わらしてしまふことが最優先になつてしまふと、改善を考へることができない。で、悪循環になつていくのではないでしょう。みんな忙しくて何かを変えようということに組織としての力が注げないのが現状じゃないかと思ひます。そういう意味では、ちよつとラインからはずれたところから考へていくというのが重要じゃないかと思ひます。進んでるところは進んでるとは思ひますが、普通の業務をやりながら片手間でやつてゐるのが現実かもしれませぬ。

電子図書館中期計画2004 の3つの柱は

いまどこまで実現できたか

◆沢辺 国立国会図書館では、いまはいろんな条件が重なつて、新たなデータベースの開発だとか、整備にいろいろ取り組んでゐるみたいだなと、外からは見える